

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4077800078		
法人名	(有)ほのぼのライフ		
事業所名	グループホーム ほのぼの		
所在地	久留米市城島町江上657-2		
自己評価作成日	平成27年11月1日	評価結果確定日	平成27年12月28日

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】(Altキー+enterで改行出来ます)

ほのぼのの暮らす方々が、穏やかに過ごす事ができ毎日笑顔で暮らせるような支援を心掛けるよう努力します。 また、「ここに来て良かった」と思ってもらえるような支援を取り組んでいます。病院が併設でない為、医療面の不安をなくすよう家族の方と連携・報告を密にし信頼関係を大事にしています。 又、この一年は地域の方と関わりを大切にし、地域の行事に参加したりホームの行事に地域の方をお招きして交流を深めています。

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaiqokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true">http://www.kaiqokensaku.jp/40/index.php?action_kouhyou_pref_search_keyword_search=true</a>
----------	---

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社アール・ツーエス		
所在地	福岡県福岡市博多区元町1-6-16	TEL:092-589-5680	HP: <a href="http://www.r2s.co.jp">http://www.r2s.co.jp</a>
訪問調査日	平成27年11月26日		

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

開設から11年目を迎える「グループホームほのぼの」は、現管理者が親族から引きついだ事業所であり、管理者は介護の現場が好きで天職と思っており、今でも時々現場に入っている。職員全員が心配り、気配り、目配りをして、アロマを焚いたり、掃除、窓の換気などを日常的に行ない、廊下やフロアも光沢があり明るく清潔に保たれている。周囲の広い田園は恰好の散歩コースとなっており、藤棚や広い芝生の庭では、家族も呼んで運動会やバーベキュー大会等をしたり、暮し易い環境が整えられている。入居者は、隣接の同法人運営のデイサービスのカラオケ教室に参加したり、一緒に行事を行う事もあり、日常的な交流を行ない、緊急時の協力体制も出来ている。地域との交流も盛んで、地域の祭りやカラオケ等に参加したり、公民館で健康体操等の出前講座を行ったりと積極的に関わりを持っている。職員の資格取得等へ向けての意欲も高く、働き易い職場環境を整え、親子で就労している職員もあり、今後も一体となってさらなる発展への取り組みが期待される。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果						
自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I 理念に基づく運営</b>						
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	全職員が目につきやすい場所に掲げている。職員ミーティングの際は理念の唱和を行い実践に繋がれるようにしている。	全職員が目につきやすい場所に掲げている。職員ミーティングの際は理念の唱和を行っている。	事業所開設時に現管理者等で作成された理念は各ユニットのフロアに掲示し、職員も理解し日々の実践へと繋げている。ほのぼのとゆったりとした環境で心に寄り添いながら、その人らしく幸福に過ごして貰う様に笑顔を大切にケアを行っており、管理者も職員や入居者の健康や心のケア等に目配り・気配り・心配りしている。	理念に添って日々の実践に繋がられているが、理念に「笑顔」と言う言葉を入れ、職員に判り易い、馴染み易い文章にしたいとの思いがある。今後、職員のアンケートや意見等を取り入れて、管理者や職員の思いを込めた新たな理念を作製される事を期待したい。
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一人として日常的に交流している	地域の行事に参加、不燃物回収の奉仕活動を行っている。又、ホームの行事に地域の方を招いて交流を深めるよう努めている。	地域の行事に参加、奉仕活動を行っている。又、ホームの行事に地域の方を招いて交流を深めるよう努めている。	年2回地域の方を呼び、事業所でバーベキュー大会や運動会も行っており、小中学校の職場体験も受入れている。地域の老人会で健康体操等も行った。隣接のデイサービスの利用者や地域の方に声掛けし、事業所見学もしてもらっている。地域との交流は多く、さらに新規の中学校や幼稚園にも交流の働きかけが行われている。	地域との交流を深められ、老人会で体操教室を開催もされているが、さらに地域の人に向けての介護教室等を行い、事業所から情報を発信し、さらに地域との交流を進められてはいいだろうか。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	小・中学校の職場体験を受け入れたり、地域の老人会の集まりに参加し、健康体操を行った。今後もそのような場に出向き、介護に関する勉強会などで発信できたらと思う。	小・中学校の職場体験を受け入れたり、地域の老人会の集まりに参加し、健康体操を行った。今後もそのような場に出向き、介護に関する勉強会などで発信できたらと思う。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2ヶ月に1回の運営推進会議の場では、ホームの現況報告や取り組み等の報告を行い、地域の方・家族などの助言を頂いている。	2ヶ月に1回の運営推進会議の場では、ホームの現況報告や取り組み等の報告を行い、地域の方・家族などの助言を頂いている。	運営推進会議は市役所・包括支援センター・民生員・区長や老人会会長等も参加し開催されており、今年度は地域との関わりを重点的に行なう事を目標とし、運営推進会議で地域の情報を得て関わりを深めている。会議で市役所のアドバイスを受けて、小さいヒヤリハットも記録する様にしたり、事業所を生かした取り組みが行われている。	運営推進会議には家族代表が参加されているが、運営会議の議事録を閲覧公開し、「ほのぼの新聞」に掲載したり、議事録の郵送や、行事との同時開催等を工夫され、出席されていない家族にも理解を深めて頂き、家族の出席増や意見等の抽出を図られる事にも期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進協議会時に相談したり、緊急時は電話にて相談しアドバイスを頂いている。	運営推進協議会時に相談したり、緊急時は電話にて相談しアドバイスを頂いている。	運営会議に市役所職員の出席があり、市町村とは電話連絡する事も多いが、馴染みの関係の構築は出来ている。地域包括支援センター主催のグループホーム交流会に参加したり、他事業所の運営会議に参加し、情報を得たり、協力関係の構築は出来ている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	玄関の施錠は基本行わないようにしている。又、身体拘束を行わないケアができるよう、ミーティングの際に話しあったり、身体拘束に関する研修がある時は、参加しケアの質の向上に努めるよう努力している。	玄関の施錠は基本行わないようにしている。又、身体拘束を行わないケアができるよう、ミーティングの際に話しあったり、身体拘束に関する研修がある時は、参加しケアの質の向上に努めるよう努力している。	玄関の施錠は行っておらず、外に出て行かれる入居者には、職員と一緒に付き添って出掛け話等をして落ち着かれて事業所へ戻っている。外部研修に参加後、月1回のミーティングで内部研修や資料の閲覧を行っており、職員は周知し、声掛け等にも注意し合い、眠前薬も職員間で話し合いや振り返りを行い、減らしたり中止をしている。	

H27自己・外部評価表(GHほのぼの)27.12.15

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)		自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待に関する研修が行われる際は参加するようにしている。 又、ミーティングの際に虐待について全職員で話しあう機会を設けることもある。	虐待に関する研修が行われる際は参加するようにしている。 又、ミーティングの際に虐待について全職員で話しあう機会を設けることもある。				
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	外部での研修が行われる際は参加できるようにしているが今回、権利擁護や日常生活支事業に関する研修を行う機会が無かった為、全職員が理解できているとは思えない。今後全職員が学び理解できるよう努めていきたい。	日常生活自立支援事業を利用した例がある。今回、権利擁護や日常生活支事業に関する研修を行う機会が無かった為、全職員が理解できているとは思えない。今後全職員が学び理解できるよう努めていきたい。	事業所で日常生活自立支援事業を以前に利用された事もあり、現在は成年後見制度を利用されている入居者もいる。内部へ伝達研修も行い、職員も基本的な知識の理解が出来ており、必要時は玄関にパンフレット等も常置され、管理者に繋げる対応が取られている。	職員は権利擁護に関する基本的な理解は出来ているが、最近の研修開催が行われていない為、無料の講師派遣等を利用し、事業所内で研修を行い、家族等にも声掛けし、一緒に研修に参加して貰う等の取り組みを行われてはどうか。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約・解約・改定の際は、文章を用いてご家族に直接説明を行い理解・納得して頂く様努めている。	契約・解約・改定の際は、文章を用いてご家族に直接説明を行い理解・納得して頂く様努めている。				
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	月1回の支払い時に、家族の意見や要望を聞くよう努めている。その際は、家族が落ち着いてゆっくりと話ができる環境をつくるように努めている。	月1回の支払い時に、家族の意見や要望を聞くよう努めている。その際は、家族が落ち着いてゆっくりと話ができる環境をつくる環境に努めている。	毎月の利用料は家族に支払に来てもらっており、家族からの個別の要望や意見が多く、入居者の部屋にテーブルや椅子を準備し、個別に聞き取りを行い対応している。意見や、家族に対応した事なども申し送りノートに記載し、全職員が確認し周知し、事業所の運営に役立っている。			
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	月1回のミーティングの際に職員の意見や提案を求め、反映できるよう努めている。	月1回のミーティングの際に職員の意見や提案を求め、反映できるよう努めている。	月1回のミーティングには休日の職員も参加して行われており、休日出勤者には手当も出ている。年1～2回管理者による個別面談もあり、職員の意見や提案も言い易く、日頃もすぐ管理者等からアドバイスも受ける事が出来る。職員の提案で肘付きシャワーチェア等もすぐ対応し購入して貰っている。	年1～2回の個別面談があり、日頃も職員の意見や提案も言い易い環境が整えられているが、さらに職員の個別の自己目標を設定し、個別面談で自己評価を受ける事で、職員の励みや意識向上を図り、運営に反映される事に期待したい。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	個々の環境に見合った就業が出来るよう努めている。又各自が向上心を持って働けるよう職員の意見に耳を傾け、環境・条件の整備に努めている。	個々の環境に見合った就業が出来るよう努めている。又各自が向上心を持って働けるよう職員の意見に耳を傾け、環境・条件の整備に努めている。				
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	現在、20歳～67歳の方の採用を行っている。性別・年齢・資格の有無を問わず人柄や介護に対する意欲を重視している。又意識向上を目指して資格習得ができるよう配慮している。	現在、20歳～67歳の方の採用を行っている。性別・年齢・資格の有無を問わず人柄や介護に対する意欲を重視している。又意識向上を目指して資格習得ができるよう配慮している。	各担当の係り決めは年度初めのミーティングで職員の希望を聞きながら決定している。管理者から資格取得に向けての研修会の紹介もあり、シフト調整も行なわれ参加出来ている。休憩場所や休憩時間も確保されており、職員の表情等を見て、管理者からの声掛けも多い。管理者や職員の距離は近く、言い易い環境が整えられている職場で、親子で働いている職員もいる。			

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)		自己評価(Bユニット)		外部評価		
			実践状況		実践状況		実践状況		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部の研修が行われる際は参加するようにしている。ミーティングの際に人権に関する話しをこまめに行っている。今後は、勉強会という形で行って全職員が学べるよう努めたい。	外部の研修が行われる際は参加するようにしている。ミーティングの際に人権に関する話しをこまめに行っている。今後は、勉強会という形で行って全職員が学べるよう努めたい。	市役所の職員を呼んで内部研修をした事もあり、年間の研修計画に組み込まれており、今年はいサービス職員の職員も参加して内部での人権研修を開催している。人権を尊重した声掛け等も行われ、職員間等でも気づいた時に小さな声で注意し合い周知している。今後も実務者研修等での外部研修後に、内部に伝達研修が行われる予定である。			次のステップに向けて期待したい内容	
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修を受ける機会がある時は、なるべく多くの職員が参加できるようにしている。又参加できなかった職員に対しては報告書を閲覧できるようにしている。	研修を受ける機会がある時は、なるべく多くの職員が参加できるようにしている。又参加できなかった職員に対しては報告書を閲覧できるようにしている。					
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム協議会に加入しており、協議会で行われる研修等に参加し他事業者と交流・意見交換を行っている。	グループホーム協議会に加入しており、協議会で行われる研修等に参加し他事業者と交流・意見交換を行っている。					
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>									
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、本人へ要望が聞ける時は聞き取り、困難な場合は状態把握と家族へ要望を聞くよう心掛けている。	サービスを開始する前に、本人へ要望が聞ける時は聞き取り、困難な場合は状態把握と家族へ要望を聞くよう心掛けている。					
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	サービスを開始する前に、本人又は家族と面談を行い、要望等を聞くように努めている。又サービス開始後も家族等こまめに連絡をとり近況を報告安心して頂けるように努めている。	サービスを開始する前に、本人又は家族と面談を行い、要望等を聞くように努めている。又サービス開始後も家族等こまめに連絡をとり近況を報告安心して頂けるように努めている。					
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	聞き取りが可能な方は、本人様より聞き取りを行い、聞き取りが困難な方は、ご家族より聞き取りを行い、ご本人・ご家族が望まれる支援に添えるよう努めている。	聞き取りが可能な方は、本人様より聞き取りを行い、聞き取りが困難な方は、ご家族より聞き取りを行い、ご本人・ご家族が望まれる支援に添えるよう努めている。					
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様が出来ることを見つけ、出来ることをして頂く事で本人様らしい生活を送っていただいている。	入居者様はおお客様であり、家族の一員のような気持ちで接して頂くよう職員へ指導している。					
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族の面会時には、日常生活の様子や体調面の話しができる時間を作っている。	面会時間、外出、外泊等ご本人・ご家族の希望に柔軟に対応し面会時には近況の報告をし今後の支援等について話し合いの場を持っている。					

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)		自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	面会に来られた際は、ゆっくりと面会して頂けるような環境をつくり、いつでも来て頂けるような気持ちを忘れないようにしている。 長年通院してある先生を希望される際は、その病院を主治医とし関係が途切れないように支援している。	面会に来られた際は、ゆっくりと面会して頂けるような環境をつくり、いつでも来て頂けるような気持ちを忘れないようにしている。 長年通院してある先生を希望される際は、その病院を主治医とし関係が途切れないように支援している。	定期的に馴染みの掛かりつけ医を受診したり、馴染みの美容室を家族送迎で利用し、外食されている入居者もいる。近所の友人や知人や昔の仕事仲間の訪問もあり、隣接のデイサービスで知り合いと話す機会もある。毎月1～2泊で自宅に外泊される入居者もあり、馴染みの関係が途切れない関係づくりが行われている。		次のステップに向けて期待したい内容	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	気の合う入居者様同士、近くの席に座って頂くよう配慮する。又、孤立しがちな方は職員が横に座るなどの配慮を行っている。	気の合う入居者様同士、近くの席に座って頂くよう配慮する。又、孤立しがちな方は職員が横に座るなどの配慮を行っている。				
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	サービス終了後も年賀の挨拶や入院時は面会に行くなど行っている。	サービス終了後も年賀の挨拶や入院時は面会に行くなど行っている。				
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>								
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人様へ希望を聞き取る事が出来る時は聞き取りを行い、困難な場合は家族の意向を踏まえて本人様の状態を考慮し検討するよう努めている。	本人様へ希望を聞き取る事が出来る時は聞き取りを行い、困難な場合は家族の意向を踏まえて本人様の状態を考慮し検討するよう努めている。	入居当初に独自のフェースシートで聞き取りを行い、職員の担当を決めてケアプランを作成し、新規の入居者は2～3カ月で1度、プランの見直しを行っている。意思疎通の難しい入居者は家族から聞き取り、日頃の表情や状態を踏まえて、思いや意向を汲み取っている。			
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	サービス開始時に生活歴等の聞き取りを行う。又サービス開始後は本人様との会話の中から聞き取りを行ったり、ご家族から面会時に聞き取り把握できるよう努めている。	サービス開始時に生活歴等の聞き取りを行う。又サービス開始後は本人様との会話の中から聞き取りを行ったり、ご家族から面会時に聞き取り把握できるよう努めている。				
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	一人一人の個人日誌にて全職員が1日の体調管理等を把握できるよう努めている。	一人一人の個人日誌にて全職員が1日の体調管理等を把握できるよう努めている。				
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	6ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、ご本人様・家族の意向に沿った介護計画ができるよう支援している。	6ヶ月に1回介護計画の見直しを行い、ご本人様・家族の意向に沿った介護計画ができるよう支援している。	管理者や担当職員がケアプランを作成し、全職員が共有し、職員が毎日のプランに添って介護記録を記入している。月1回のモニタリングのほか、ミーティング内にケアカンファレンスも開き、身体的変化時や6カ月に1回の定期的担当者会議でケアプランの見直しも行っている。全職員にケアプランの共有化を図り、日々のケアの向上に繋げている。	ケアプランの見直し時等に医師等の聞き取りも行われており、医師等からの意見も担当者会議議事録に残すことで、より発展的なプラン作成に活かされることに期待したい。		

H27自己・外部評価表(GHほのぼの)27.12.15

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人日誌へケアプランの実行を記入できるようにしている。全職員が日々のケアプランの実践に目を通せるようにしている。	個人日誌へケアプランの実行を記入できるようにしている。全職員が日々のケアプランの実践に目を通せるようにしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	病院受診等家族が付き添えない時はホームの方で付き添いを行ったり、個人の必要な物品等がある時は、家族へ連絡し購入している。	病院受診等家族が付き添えない時はホームの方で付き添いを行ったり、個人の必要な物品等がある時は、家族へ連絡し購入している。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	避難訓練の際に、地域住民の方や消防団の方への参加を呼びい協力を得ている。又近所のスーパーへ買い物へ出掛けたりしている。	避難訓練の際に、地域住民の方や消防団の方への参加を呼びい協力を得ている。又近所のスーパーへ買い物へ出掛けたりしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入居の面談際に、本人又は家族が希望される病院にて医療を受けられるよう支援している。	入居の面談際に、本人又は家族が希望される病院にて医療を受けられるよう支援している。	提携医は24時間緊急時でも対応できるが、以前からのかかりつけ医を受診されている入居者も半数おり、提携医や以前からのかかりつけ医の選択は自由である。かかりつけ医受診時は家族送迎だが、職員が送迎や同行する事もされている。状態を把握して家族に連絡したり、介護経過記録に記録し、申し送り等で全職員の共有もなされている。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	現在、看護師の雇用が無い為ホーム長・管理者への連絡を蜜にとり、報告・相談を行うようにしている。又、受診時に主治医、看護師等に相談を行うようにしている。	現在、看護師の雇用が無い為ホーム長・管理者への連絡を蜜にとり、報告・相談を行うようにしている。又、受診時に主治医、看護師等に相談を行うようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	お見舞いへ行き、入居者が安心出来るよう心がけている。又、担当医や看護師から状態等を聞き情報を得て早期の退院ができるよう努めている。	お見舞いへ行き、入居者が安心出来るよう心がけている。又、担当医や看護師から状態等を聞き情報を得て早期の退院ができるよう努めている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化や終末期の方が出た時は、家族の方と話し合いの場を設け、ホームで出来る事の説明し理解して頂くよう努めている。又、ミーティングの際に職員間においてホームで出来る支援を検討するようになっている。	重度化や終末期の方が出た時は、家族の方と話し合いの場を設け、ホームで出来る事の説明し理解して頂くよう努めている。又、ミーティングの際に職員間においてホームで出来る支援を検討するようになっている。	看取りは行っていない旨を入居当初に家族等へ説明しており、重度化した場合はぎりぎり提携病院に救急搬送で入院されている。入院した後、退院と同時に事業所に再入居する事で、食欲も出てきて状態が安定した入所者もいた。看取りの外部研修に参加し、内部研修も行っており、今後は提携医等も検討しながら、看取りを行う事を検討している。	

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)		自己評価(Bユニット)		外部評価	
			実践状況		実践状況		実践状況	
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	新入職員に対しては消防署が行う心配蘇生の講習会への参加を促している。 今後、全職員に対して心肺蘇生の講習会を行って実践力を身に付けたいと思っている。	新入職員に対しては消防署が行う心配蘇生の講習会への参加を促している。 今後、全職員に対して心肺蘇生の講習会を行って実践力を身に付けたいと思っている。				
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回の消防署立会いのもと避難訓練、消火訓練を行っている。その際は、地域住民・消防団への参加を依頼し協力を得ている。 風・水害に関しては、ミーティングの際に避難等に関して話し合い全職員が認識できるよう努めている。	年2回の消防署立会いのもと避難訓練、消火訓練を行っている。その際は、地域住民・消防団への参加を依頼し協力を得ている。 風・水害に関しては、ミーティングの際に避難等に関して話し合い全職員が認識できるよう努めている。			夜間を想定して、避難訓練も行われており、訓練時は休暇の職員も出勤して、全職員が参加し避難訓練を行っている。緊急連絡網に隣接のデイサービス等も組み込まれており、協力体制の構築は出来ており、備蓄も3～4日分確保されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>								
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	ミーティングの際に入居様の人権・プライバシーが守られているか話し合う場を設けることにより、職員への認識がもてるよう努めている。	ミーティングの際に入居様の人権・プライバシーが守られているか話し合う場を設けることにより、職員への認識がもてるよう努めている。			外部講師を招き、接遇マナーの研修を行った事もあり、毎年定期的に内部研修でも学習している。 ミーティングでも「認知症の方との付き合い方・接し方」等を学んだり、日々のケアの中でも、親しみのある声掛けで、慣れ合いにならない様に接している。、管理者等からも気付いた事があれば、職員へ口答ですぐ注意されており、一人ひとりを尊重した対応が行なわれている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人様の希望が聞かれる時は、本人様の希望に添えるよう努めている。 スーパーへの買いへ行き、本人様の買いたいおやつを買ったり、外食へ行きメニュー表から好きな食べたいものを選んで頂いた。	本人様の希望が聞かれる時は、本人様の希望に添えるよう努めている。 スーパーへの買いへ行き、本人様の買いたいおやつを買ったり、外食へ行きメニュー表から好きな食べたいものを選んで頂いた。				
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	ひとり一人のペースを把握し、その方の意欲的な行動を見守りながら、本人に合った支援ができるよう努めている。	ひとり一人のペースを把握し、その方の意欲的な行動を見守りながら、本人に合った支援ができるよう努めている。				
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着衣・頭髮の乱れに気を掛けている。 ヘアカラーや顔そりを要望される方には希望に添えるよう支援を行っている。お化粧を希望される方は、洗面後にお化粧の時間をとれるよう心掛けています。	着衣・頭髮の乱れに気を掛けている。 ヘアカラーや顔そりを要望される方には希望に添えるよう支援を行っている。				
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事前のテーブル拭きやエプロンたたみを意欲てこにされる方もいらっしやる。食事の好みも、その日の体調・メニューの希望があれば柔軟に対応している。 又、個人個人の湯のみやお箸を使って食事されている。	野菜の皮むき・炊飯ジャーのスイッチ押し等のその方の能力に応じ職員と一緒にやっている。食事の好みも、その日の体調・メニューの希望があれば柔軟に対応している。 又、個人個人の湯のみやお箸を使って食事されている。			食材の宅配サービスを利用し栄養バランスの取れたメニューを提供している。入居者もテーブル拭きや皮むきを手伝い、調理担当職員や職員で調理し、減塩や糖尿病食や刻み・ミキサー食等の治療食も対応できる。入居者と職員も同じメニューで同じテーブルで会話しながら食事を楽しんでいる。入居者の誕生日当日にケーキ等でお祝いしたり、外食の機会もあり、だご汁・たこ焼き・鍋パーティー等を行い、芝生の庭で家族も交えてバーベキュー等も楽しまれている。	

H27自己・外部評価表(GHほのぼの)27.12.15

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	宅配業者を利用し、栄養バランスを考慮している。本人様にあった食事形態や食事量を考慮し配膳している。食事量・水分量はチェックシートを用いて量を把握できるようにしている。	宅配業者を利用し、栄養バランスを考慮している。本人様にあった食事形態や食事量を考慮し配膳している。食事量・水分量はチェックシートを用いて量を把握できるようにしている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後一人一人に合わせた口腔ケアを心掛け、自力で出来る方は自力での施行を促している。	毎食後、個々に合わせた口腔ケアを行っている。又本人様の希望により歯間ブラシを行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄チェックシートを用いて排泄間隔をテックし誘導を行ったり、排便の有無をチェックしている。日中は出来るだけ布パンツで過ごして頂けるよう努めている。	排泄チェックシートを用いて排泄間隔をテックし誘導を行ったり、排便の有無をチェックしている。日中は出来るだけ布パンツで過ごして頂けるよう努めている。	入居者全員分の毎日の排泄チェック表と水分摂取量を記入し、ミーティングで話し合っている。統一した介助をする事で、パット汚染が無くなったり、大パット使用の方が小パット使用になったり、パットを外す事が出来ている。車椅子利用の方のトイレは職員2人介助で行ない、安全な排泄介助に努めている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	便秘気味の方は、運動・水分摂取を促している。また、野菜の切り方を工夫し食物繊維が多くとれるよう心掛けている。	便秘気味の方は、運動・水分摂取を促している。また、野菜の切り方を工夫し食物繊維が多くとれるよう心掛けている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	週4日の入浴日にはあるが、夏場は1日シャワー浴を追加し入浴を行っている。希望があればその都度のユニットバスでの入浴支援を行っている。基本2名ずつの入浴を行っており、その際は気の合うペアでの入浴を心掛けている。	週4日の入浴日にはあるが、夏場は1日シャワー浴を追加し入浴を行っている。希望があればその都度のユニットバスでの入浴支援を行っている。基本2名ずつの入浴を行っており、その際は気の合うペアでの入浴を心掛けている。	土日以外は毎日、10時～16時迄入浴出来る体制が整えられている。個浴と2人で入浴出来る大きな浴槽の2箇所の浴室があり、仲の良い2人で入浴されている利用者も3組いる。デイサービスのカラオケに参加した後にデイサービスの友達と一緒に入浴を楽しんでから戻って来られる入居者もおられ、事業所でも時々ゆず湯等にして気分転換が図られたり、皮膚管理等も行われている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	本人の希望や体力に応じて休憩時間を考慮している。又昼夜逆転しないようにも心掛けている。一応、消灯時間はあるが、好きなTVを見たいと要望する方は居室等で見て過ごしてある。又、寝つきが悪い方居られた場合はリビングにて一緒に過ごして頂いてリ対応を行っている。	本人の希望や体力に応じて休憩時間を考慮している。又昼夜逆転しないようにも心掛けている。一応、消灯時間はあるが、好きなTVを見たいと要望されたり、リビングにて過ごされる方も居られる。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	全職員が薬の内容がわかるように、個人ファイルやお薬手帳にてまとめている。処方してある薬の変更や頓服での処方があった場合は、個人日誌や申し送りノートにて全職員が把握できるようにしている。	全職員が薬の内容がわかるように、個人ファイルやお薬手帳にてまとめている。処方してある薬の変更や頓服での処方があった場合は、個人日誌や申し送りノートにて全職員が把握できるようにしている。		
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	一人一人のペースでの生活リズムを保てるよう支援している。デイサービスの利用者様のお友達と会われることを楽しみにしてある方も居られる。テーブル拭きや茶碗拭きをお手伝いされる方も居られる。嗜好品の提供は、漬物・お菓子等ホームでの管理となるが、要望される時に提供を行っている。	一人一人のペースでの生活リズムを保てるよう支援している。デイサービスの利用者様のお友達と会われることを楽しみにしてある方も居られる。嗜好品の提供は、漬物・お菓子・ビールとホームでの管理となるが、要望される時に提供を行っている。		

H27自己・外部評価表(GHほのぼの)27.12.15

自己	外部	項目	自己評価(Aユニット)	自己評価(Bユニット)	外部評価	
			実践状況	実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	本人様の希望に応じて、散歩・買い物等へ出掛けられるよう支援している。普段行けない場所は、月1回の外出行事に取り入れたり、受診時に懐かしまれる場所を通ったりしている。	本人様の希望に応じて、散歩・買い物等へ出掛けられるよう支援している。普段行けない場所は、月1回の外出行事に取り入れたり、受診時に懐かしまれる場所を通ったりしている。	天気の良い日は車椅子の入居者も一緒に田園風景の中を散歩し、近くのお店で買い物もしている。毎月1回程度は花見や夕食等のドライブがあり、隣接のデイサービスのカラオケに参加したり、クリスマスや敬老会もデイサービスと一緒に開催したり、個別外出支援で買物に入居者2〜3人で、職員2人が付き添って出掛けており、外出の機会が多い。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	現在お金をご本人様で管理されておられる方はいないが、ご本人様が管理できる方は財布を持っていただいている場合もある。	現在お金をご本人様で管理されておられる方はいないが、ご本人様が管理できる方は財布を持っていただいている場合もある。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	本人様が要望された時は自由に電話を利用することができる。遠方に居られるご家族から手紙や贈り物を楽しみにしてある方も居られる。	本人様が要望された時は自由に電話を利用することができる。遠方に居られるご家族から手紙や電話を楽しみにしてある方も居られる。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	廊下の窓からは、芝生の庭が見渡せ、桜・藤の花先が季節の移り代わりを眺めることができる。リビングのテーブルには季節の花を飾るよう心掛けている。又、利用者様に合わせた温度調節やホーム内の臭いに対するの配慮を行っている。	居室の窓からは、田んぼが見渡せ季節の移り代わりを眺めることができる。リビングのテーブルには季節の花を飾るよう心掛けている。又、利用者様に合わせた温度調節やホーム内の臭いに対するの配慮を行っている。	事業所内は明るい木造りのバリアフリーで、職員が掃除やワックスがけを行ない、床等は光沢があり清潔に保たれている。廊下には天窓から障子越しの柔らかい日差しが差し込み、夜間の照明も暖かみがある。廊下やフロアには額縁や入居者の写真が飾られ、椅子やソファが置かれ、ゆっくりと家族等と会話できるスペースも多い。フロア横の畳の間は催し物等のステージにもなっており、各ユニットのフロアには職員と入居者が一緒に作った大きなクリスマスリース等も飾られ、温かみのある事業所となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	廊下のベンチは、ユニット間関係なく皆様が共有して過ごせるベンチがある。仲良く談笑されたり体操をされたりの姿がみられる。畳のスペースでは、足を伸ばして過ごされる方も居られる。	廊下のベンチは、ユニット間関係なく皆様が共有して過ごせるベンチがある。仲良く談笑されたり体操をされたりの姿がみられる。Aユニットの畳のスペースまで行かれ、足を伸ばして過ごされる方も居られる。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	在宅時に使ってあった家具や品物を持ち込んで頂いたり、家族の写真を飾ったりされている。昔のアルバムを持ってきてあり、皆さんに見せて昔を懐かしまれる方も居られる。	在宅時に使ってあった家具や品物を持ち込んで頂いたり、家族の写真を飾ったりされている。居室に椅子を持ち込まれ、外を眺めながら一人の時間をくつろいでいる方もおられる。	各居室には毛筆書きのりっぱな表札があり、居室窓からは広い田園風景やクレーク等を眺める事もでき、明るく開放的である。持込みは自由で、馴染みのテーブルや椅子や、額縁や人形等の持込みをされており、ベットの持込みも可能である。自宅の自室と同じ様に、家具等を配置された入居者もおられ、個性のある部屋づくりがされていた。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内部には手すりを設置し、自力歩行の手助けができるようにしている。又トイレや居室の入り口にはわかり易いよう表札等を用いている。	建物内部には手すりを設置し、自力歩行の手助けができるようにしている。又トイレや居室の入り口にはわかり易いよう表札等を用いている。		